

安心・安全街づくりワーキングを ふりかえって

南海トラフ地震やゲリラ豪雨が懸念される昨今、利用者が各事業所間を複雑に流動するターミナル地区では個々の事業所の防災対策のみでは対応が難しく、エリア全体での取り組みが不可欠となっています。

そこで当WGでは、国、県、市などの行政機関などと連携して、①帰宅困難者支援対策 ②豪雨による地下階や地下街への浸水拡散防止対策を軸に調査、提言、訓練などを進めています。

これまでの成果としては、名古屋市との「パートナーシップ協定締結」「大規模地震発生後の災害事象シミュレーション作成」などが挙げられます。

リーダー 松田 諭
(株式会社 ユニモール)



今後は、都市再生特別措置法に基づく安全確保計画策定作業や愛知県帰宅困難者支援対策策定作業などにも積極的に関わりつつ、名駅地区のエリア防災機能のレベルアップに努めてまいりたいと考えています。



パートナーシップ協定締結



安心安全WG

図上訓練に参加して「名古屋駅地区における帰宅困難者対策」

委員 竹内 和美 (株式会社 エスカ)

名古屋駅地区街づくり協議会と名古屋市において、安全確保計画に関する事項のうち、帰宅困難者への対応に視点を置き、関係機関と連携し、震災時の帰宅困難者に対する地域の対応力の向上を図るとともに、今後の対策を検証し充実を図るために実施しました。今回は、DIG (Digging Disaster · Imagination · Game) 形式の図上訓練として、講師が、被害状況やライフライン事業者の状況を示して、各企業がどのような対応をするかを、2グループに分けて討論しました。本来は、発災してから、各企業がどのような対応をするのか、また、時間の経過とともにエリア内で情報を共有し、どのように連携して帰宅困難者対策を推進していくのかといったことを、話し合う予定でしたが、各自が自らの施設に関する事を優先してしまい、エリア全体で被害の抑制を図る、いわゆるエリア防災の視点を踏まえた議論に及ばなかったことが、反省点であり、今後の課題であると認識しました。



僕の小さい頃の名古屋駅II

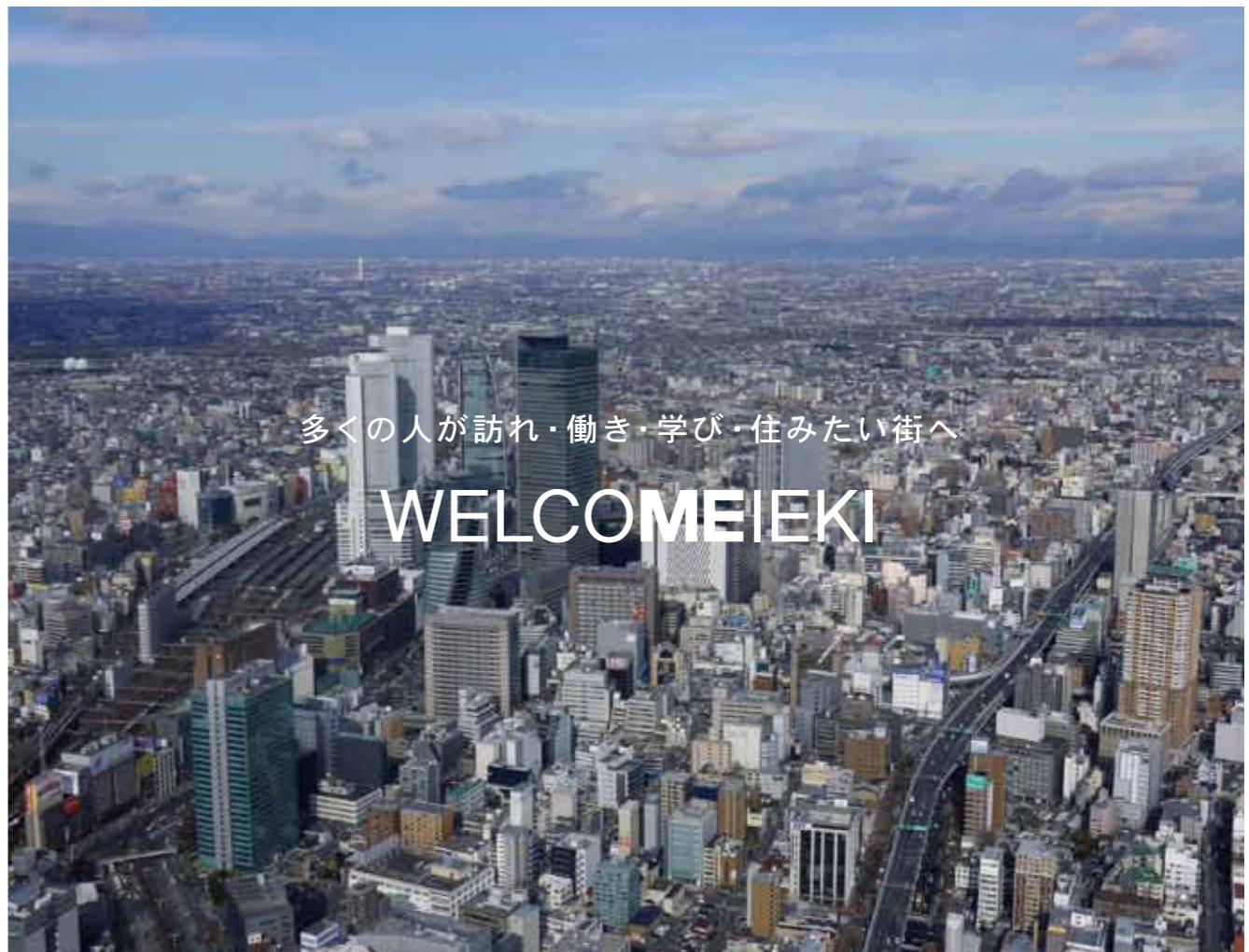
委員 佐藤 嘉洋 (千福企業 株式会社)

昭和34年9月26日夜、僕の4歳の誕生日のこの日、天は、名古屋市に未曾有の大災害をもたらしました。名古屋市内の死者は1,851名、被害推定額は1,287億円。東海地方を襲った台風15号「伊勢湾台風」です。中村区は、名古屋市南部に比べれば被害が少なかったと言えるでしょうが、それでも床上浸水が121件と床下浸水が9,310件もありました。都市間競争を背景に開発が続く名古屋駅周辺地区ですが、個々のハード整備は、水害に対してのみならずエリアの防災・減災力を高めてくれます。そして併せて大切なことは、我々がソフト面で協力していくことかも知れません。



名古屋駅地区街づくり協議会 VOL.3

会報



当協議会は、おかげさまで今年の4月で6年目を迎えることができました。平成20年3月21日の設立時は会員数29法人でしたが、その後多くの賛同を得て組織を拡大し、9月末現在、正会員49法人と賛助会員49法人を擁するまでになりました。これは、街の魅力向上や将来像に対する真摯な議論や提案が、そして日頃のさまざまな社会貢献活動が注目され、認められてきたからでもあり、あらためて関係各位のご理解とご協力とご尽力に深謝いたします。

こうした活動の方向性は、平成23年4月に総会承認されました「名古屋駅地区街づくりガイドライン2011」に則ったものですが、今後は新たなステージに向けて、

このガイドラインのさらなる具体化をめざし、街づくりの実効性を高めていく必要があります。

今年に入り他団体からも名駅地区や栄地区に対する多くの提言が出されており、名古屋の街づくりに対する関心の高さがうかがえます。東京オリンピックが開催される2020年までの7年とその後のリニア開業までの7年を見据えつつ、るべき街の将来を展望し、実現に向けて動き出そうではありませんか。



名古屋駅地区街づくり協議会
会長 神尾 隆

幹事をふりかえって

幹事長 大橋 寧
(大橋物産 株式会社)



日頃より幹事会の運営活動にご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

当協議会も設立以来6年目に入り、各専門委員会、ワーキンググループ活動も「街の将来像2025」の実現に向けて一層活発になり、毎月1回開催の幹事会の中でも深く議論検討された経緯が報告されております。委員、WGメンバーの皆様におかれましては、日々お忙しい中、貴重なお時間を割き費やしての作業であり、私自身、皆様の街づくりにかける熱意を肌で強く感じておるとともにあわせ深く感謝いたしております。

今期上半期におきましては、「市」への「名古屋駅地区街づくりに関する提言」、新規会員承認、社会実験案件等、数々の議題を審議検討の上承認をいただきました。限られた時間の中での審議にもかかわらず、幹事会社様の前向きなご理解に支えられてまいりました。今後も、それにかまることなく会員各社様のご意向がさらに的確に反映されるような幹事会運営を目指し努力いたしており所存でございます。

5月に実施されました“市への街づくり提言”は、公共空間整備、地上地下連動性、自転車交通適正化等に関し官民協働を謳った提案であり、大変意義あるものでした。提言数日後には、名古屋市とのトップ懇談会の開催も実現し意見の交換もできました。官民連携に向け課題共有ができ、お互いに一步も二歩も近づくことができたといえるのではないでしょうか。

現在、当協議会は近い将来の『法人化』を睨んで組織検討を昨年度より行っております。他団体事例、各組織形態等の研究をふまえ、全会員あってこそ我々当協議会にとって、ベストな法人形態の追求を目指しております。またメインテーマであります“街の賑わい向上策”“収益事業の展開”“街の安全性向上”等の活動も委員会、ワーキンググループのメンバーを活動源として運営しております。活動内容もより具体化してゆくにつれ、今後はさらなる会員の皆様のマンパワーを必要としております。協議会としては正会員の枠を超えてお力添えいたくことも検討の視野に入れ、広く皆様にお声がけさせ

ていただく事も考えております。会員の皆様におかれましては積極的なご参画をいただき、メイエキ街づくりに関する皆様の思い、ご意見ご提言をお聞かせいただければ存じます。

先日、7年後2020東京五輪開催決定に日本は沸き立ちましたが、またその7年後には、当協議会がターゲットイヤーとしている2027年のリニア中央新幹線名古屋開通が予定されています。東京では晴海・有明地区など会場を中心とした施設建設、インフラ整備の計画がもはや生々しく報道されておりますが、2027年の名古屋駅地区には、我々が思い描く街の構想が多くの場面で実現されている事を切に願いたいものです。



新年会(2013年1月29日)



拡大幹事会(2013年3月29日)



定期総会(2013年4月22日)



活動説明会(2013年5月29日)

運営委員会をふりかえって

運営委員長 原田 操
(三交不動産 株式会社)



運営委員会では、2012年度から今年度にかけて、次の3つの事項を中心に活動を推進してまいりました。

①会員の増強

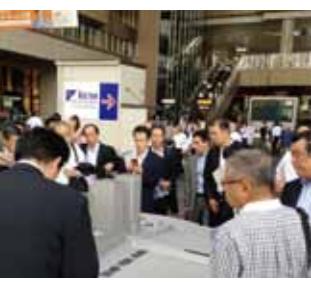
今年の9月末時点では、正会員49法人、賛助会員49法人となり、合計で98法人となりました。特にこの1年間では、賛助会員が15法人増加しており、名古屋駅地区以外からも、多くの法人の方にご入会いただいております。

②行政機関との情報交換の実施

行政機関との情報交換に関しては、昨年10月に中村区の区政推進会議において当協議会の活動内容並びにガイドライン2011の説明をするとともに、様々な意見交換を行ってまいりました。

③協議会組織の検討について他団体との情報交換の実施

3月には一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会様、9月には一般社団法人グランフロント大阪TMO様との情報交換を行い、今後の協議会組織の在り方について協議を進めております。

中村区トップセミナー
(2012年10月24日)活動報告会(組織検討)
(2013年3月29日)大丸有ヒアリング
(2013年3月4日)グランフロント大阪
(2013年9月6日)

これまでの視察先と法人化を選んだ主な背景

運営委員会 事務局 鬼武 光 (名鉄不動産 株式会社)



①契約締結の主体

法人となれば、各種契約の主体となることが可能。特に、行政との契約の場合、任意団体では契約できない場合もある。

②資金管理の厳格化

任意団体の場合、個人名義口座にて資金管理を行わなければならぬが、法人化することで、法人名義にて資金管理が可能。今後、組織を大きくしていく上では、資金管理も重要な要素となる。

③法人としての責任の有限性

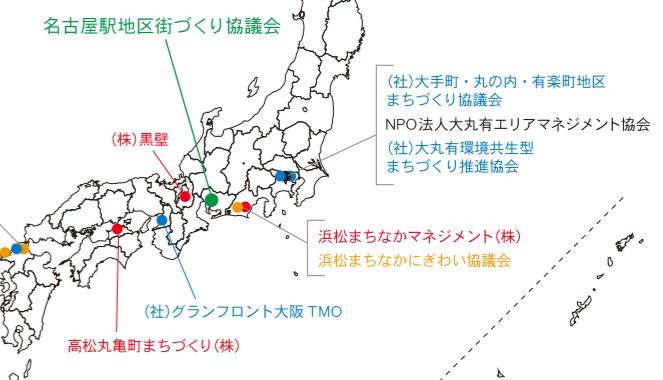
任意団体では、代表者個人に対し団体全体の責任を負うことになる。法人化することで、個人への責任を避けることが可能。

④公的な組織としての位置付け

行政により、「都市再生整備推進法人」として認められることで、都市再生整備計画の提案が可能となる。公的な組織としての位置付けが得られる。

運営委員会では、引き続き、当協議会の組織のあり方を検討していきたいと思います。

- 任意団体
- 株式会社
- 一般社団法人
- NPO法人



事業企画委員会をふりかえって

事業企画委員長 神戸 敏彦
(名古屋地下街 株式会社)

事業企画委員会は「にぎわい、快適、安全、環境」に配慮した事業の企画運営を目指して、地域活動・広報PR・イベント企画を行っております。

①地域活動 WG

皆様のご協力により5年目を迎えた清掃活動は、名駅の大通り(名駅通り、桜通り、錦通り)の歩道を月に1回清掃しています。また、サポーター花壇は現在20企業様にご参加いただいております。

②広報PR WG

マップの第3弾として「名古屋駅地区 公共交通のりばマップ」を作成しました。

③イベント企画 WG

今年7月19日に、370名の皆様に参加していただき「打ち水」を行いました。また、9月27日に「名駅西ルート」街歩きを実施しました。



地域活動WG活動について

委員 犬塚 博之 (株式会社 ナゴヤキヤッスル)

地域活動WGは毎月1回実施している『清掃活動』と今期で第4期となる『サポーター花壇』の運営をしております。清掃活動は毎回約60の企業から約140名の方々にご参加いただき、連日の猛暑にも負けずに名駅前のエリアを名駅南ルート・錦通りルート・名駅北ルート・桜通りルートの4つに分け、1時間の行程で《喫煙マナー向上活動》《自転車の違法駐輪撲滅活動》も兼ねて実施しました。清掃活動は、始めた当初と比べて回収するゴミの量が明らかに減っています。これも一重にご参加いただいている皆様の努力の賜物と感謝しており、継続は力なりを実感しております。また、『サポーター花壇』は今期から新たに2企業が加わり合計24カ所の花壇の管理をいただいております。花壇には花サポーター・水サポーターの企業名を入れたプレートを設置しています。名古屋駅地区は県・市ののみならず中部圏の玄関です。お客様をお迎えするにはいつもきれいな状態であり続けることを目指し、今後も皆さんのご協力をいただき取り組んでいきたいと思います。

広報・PR WG 「公共交通のりばマップ」制作

委員 三鬼 治 (株式会社 毎日新聞社)

「名古屋駅地区 公共交通のりばマップ」を制作しました。名古屋駅は、JRの新幹線、在来線をはじめ、名鉄、近鉄、あおなみ線、市営地下鉄などの路線が乗り入れ、乗降客は1日110万人にのぼります。また、地下街が広がり、初めての人は迷ってしまいます。さらに、市バスターミナルが工事中で臨時のバス停が通りに分散しています。そこで、のりばマップを制作、改札口を立体的に表現、付近の写真も掲載しました。

イベント企画WG 街歩き「地下街探索ツアー」の実施

委員 門原 和好 (株式会社 名古屋交通開発機構)

2012年11月12日に街歩き「名駅地区地下街探索ツアー」を実施いたしました。賛助会員様を対象にした初めての試みでしたが、総数35名様の参加をいただき、地下街の地階にある機械室や空調設備、名駅のシンボルゾーン(飛翔)の見学等、日頃は入ることのできない施設を見学し好評を得ることができました。本年度は9月27日に正会員を対象に実施した「駅西・歴史探索ツアー」を11月8日にも賛助会員を対象として実施いたします。多数のご参加をお待ちしております。



名古屋駅地区打ち水大作戦 2013

委員 河原 弘明 (名鉄協商 株式会社)



7月19日、3回目となる名古屋駅地区打ち水大作戦を、JRセントラルタワーズガーデンおよび名駅通のミッドランドスクエア前・名鉄百貨店前・名古屋ビル前歩道で開催しました。街づくり協議会正会員・賛助会員のほか、名古屋駅地区振興会、ライオンズクラブ国際協会、大ナゴヤ大学、名古屋モード学園や、名古屋工業大学の学生さん等にも参加いただき、過去2回を上回る約370名の参加者により盛大に行われました。

一昨年、昨年と2年続けて天候不良により中止していたため、3年ぶりの開催となりました。ワーキンググループとしましては、運営に関する反省点もありますが、まずは久しぶりに無事に開催できたことに胸を撫で下ろしています。このイベントは、環境啓発、協議会PR、会員交流を目的としており、協議会会員が大勢集まる貴重な機会ですので、今後もこの機会のより一層の活用を図り、発展的に継続していくことを望みます。



道路利活用 WG

道路利活用 WG 事務局

平成23年度、24年度は、道路利活用における社会実験を、国土交通省より受託し実施しましたが、本年度は受託事業ではなく、当協議会、有識者、名古屋市および国土交通省中部地方整備局にて社会実験協議会を組成し、エリアマネジメント事業の本格運用をめざし取り組んでいます。

この社会実験では主に、道路上にある街路灯へのバナー広告の掲出、工事用仮囲いへの広告掲出を実施しています。そしてそこで得た広告掲載料の一部を道路清掃や花壇の維持管理などへ公共還元していく仕組みづくりを検証しています。また、広告を掲出するには名古屋市の都市景観形成基準というルールがあり、ロータリー周辺は特に規制が厳しい地区でもあります。

収益を得るためにどんな広告でも出せばいいというわけではなく、街の景観にふさわしいものを掲出することが大前提であり、中部地区の玄関口にふさわしい広告掲出をすることで、街にぎわいと彩りをもたらすことができればと思っており、当協議会での審査ができるようなルール作りも検討しています。

現在は、街の人に広告の印象についてのアンケート調査を行ったり、名古屋駅地区の魅力をさらに向上させ、恒久的に収益を得られるような新規事業の検討も進めています。



社会実験協議会

都市再生委員会をふりかえって

都市再生委員長 高崎 裕樹
(名古屋鉄道株式会社)



都市再生委員会では、2011年4月に策定した『名古屋駅地区街づくりガイドライン2011』の深化化、改訂を目指した検討を行っています。

昨年10~12月には、東京、大阪、名古屋の主要三大都市において、街づくり活動における方向性の共有と提言のとりまとめを目的に、『環境まちづくりフォーラム2012』を開催し、各都市とのネットワーク構築を図りました。

昨年11月には、道路空間再配分を含めた駅前空間の大胆な改変を具現化している姫路駅前の取り組みについてヒアリング・視察を行いました。民間活力と行政のリーダーシップが上手く相乗し、限られた時間の中で実現した貴重な先進事例でした。

また、昨年度に引き続き、東京都市大学の小林教授、名古屋大学の森川教授を迎えて、中部経済連合会、名古屋商工会議所、中部圏社会経済研究所、名古屋市が参加する『ターミナルシティ形成に向けての意見交換会』を開催しています。各団体のリニア開通を見据えた街づくりに関する提言について情報共有し、意見交換を行っています。

今年5月には、中部圏の玄関口に相応しいターミナルシティ形成に向けた取組みを官民連携して進めること

を主旨とした『名古屋駅地区の街づくりに関する提言』をとりまとめ、名古屋市へ提出しました。そこには、道路空間再配分、地下街接続基準の見直しなど、重要性の高い課題を取り上げています。これからも、委員会メンバーだけでなく、会員の皆さん、関係者にわたり広く意見をいただきながら、魅力ある街づくりの実現に向けて頑張っていきたいと思います。



環境まちづくりフォーラム 2012 in NAGOYA
(2012年10月3日)



環境まちづくりフォーラム 2012 in TOKYO
(2012年12月4日)



姫路视察 (2012年11月30日)



提言書 (2013年5月24日)

ワークショップに参加して

株式会社 DNP 中島裕司



参加させていただいたワークショップでは、職場や立場が異なるメンバーで「名駅を魅力的な街にしたい」という“熱い思い”と「名駅の将来あるべき姿」についての“未来ビジョン”を議論し共有することができました。「未来のあたりまえを作る。」を掲げる大日本印刷グループとして、今回の未来志向型ワークショップで共有した“未来ビジョン”を、「未来のあたりまえの姿」として実現させる一翼を担う存在になれればと考えています。

三井物産 株式会社 岩下多美子



名駅地区を利用するという同じ環境で立場の異なる方が“活気に溢れた魅力的な空間”作りに積極的にアイデアを出し合いました。ハード・ソフトの両面から新たなイメージを描き「車社会の名古屋」をキーワードに車道上に大規模なペデストリアンデッキを作る等自由な発想で案が出され、大いに盛り上がりました。今回の経験を機に広く観光客を惹き付け、働く我々も自信が持てる魅力ある名駅の街づくりに思いを巡らせていくたいです。

ワークショップ『道路の利活用のアイデアを語ろう』の開催

都市再生委員会 事務局 川添 豊 (名古屋鉄道株式会社)

『週末に現れるアートの街』

車両乗り入れ制限で生まれた空間を利用し、学生によるデザイン発表会を開催。

『名駅ウォーキング』

ウォーキングコース、サイクリングコースを設置。

『ナナちゃんがいる街』

ナナちゃん人形が道案内、まちをPR。

『めいえき 100年の森』

ツリーハウスや森のカフェ、緑陰空間を形成。

『金運UP! ゴールドタウン』

名駅の建物をすべて金色に。ワンポイント金色を探すスタンプラリーを開催
…etc

以上のように娯楽、文化、スポーツ、情報発信など様々な観点から、斬新な成果発表があり、道路空間に留まらず、街全体で取り組むような壮大なアイデアもありました。また学生の方々からは、将来の街づくりを共通言語として、普段接する機会の少ない社会人の方々との貴重な話し合いの場が得られたと、満足げな様子で挨拶していたのが印象的でした。

今回得られたワークショップの成果については、地元の方々・利用者目線による、名古屋駅周辺に足らない要素、求められる要素が含まれる貴重なアイデアですので、今後の街づくりガイドラインの深化化や、名古屋市が行っている『交通まちづくりプラン』についての検討の参考になればよいと思っています。

